



校長室だより やる気みなぎる『楽しい』学校



きまがせ

令和6年9月2日
野田市立木間ヶ瀬小学校
校長 松藤 有里

今年の夏休みは、オリンピックに出場している選手たちの活躍の様子を、つい夜更かししたり、結果を朝の情報番組で見たりしているうちに、前半があっという間に終わってしまったように感じます。その後は、野田市出身の高校生が、甲子園で活躍したこともあり、高校野球の熱い戦いに感動する日々でした。



そして、夏休みの最終週は、台風の影響が、いつぐらいからどの程度あるのか、天気予報を気にする毎日となりました。私自身も、これ程までに動きが遅く、予測しにくい台風は、経験したことがありませんでした。とにかく、今日は子どもたちが安全に登校する様子にひとまず安心したところです。

また、8月8日には日向灘地震が発生し、その後「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が初めて発令されたこともあり、「防災」について考える夏だったのではないのでしょうか。

昨日9月1日は、【防災の日】です。これは、「政府、地方公共団体等関係諸機関をはじめ、広く国民が台風、高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備する」ために制定された防災啓発デーです。9月1日に制定されたのは、ご存じと思いますが、1923年に発生した関東大震災に由来しています。

いざというときに
あわてないうちに



今日、学校では大きな地震が起きたことを想定した避難訓練を行いました。

子どもたちには、「いざは普段なり」「自分の命は自分で守る!」ということをお話ししました。

「いざ」というとき、慌ててしまうのは、当たり前です。そんな慌てた状況で普段行っていないことは、なかなかできないものです。だからこそ、普段の生活から落ち着いた行動を意識することが大切です。

そして、いつどこで起こるかわからない地震。校内にいたとしても、必ずしも周りに誰かいるとは限りません。「自分の命は自分で守る」という意識を常にもっていなければなりません。普段から考えて行動できるよう、様々な場面で、子どもたちと一緒に考えながら、日常生活を学びの場にしていきたいと思えます。

